

李朝木工研究会 第3回「李朝木工家具の魅力」

日時 2011年10月8日(土)午後1時から5時

会場 松本市 長野県工業技術総合センター環境情報技術部門 大会議室

講師 尾久彰三氏

参加者数 31名 [木工会会員8名]

報告者 田島栄次

今回も李朝家具について第一人者でもあり、骨董にも詳しい尾久彰三氏を講師に迎えて「李朝木工研究会」が開催されました。

前半(2時から4時)は、講師の尾久さんと谷さんとの対談形式で始まりました。

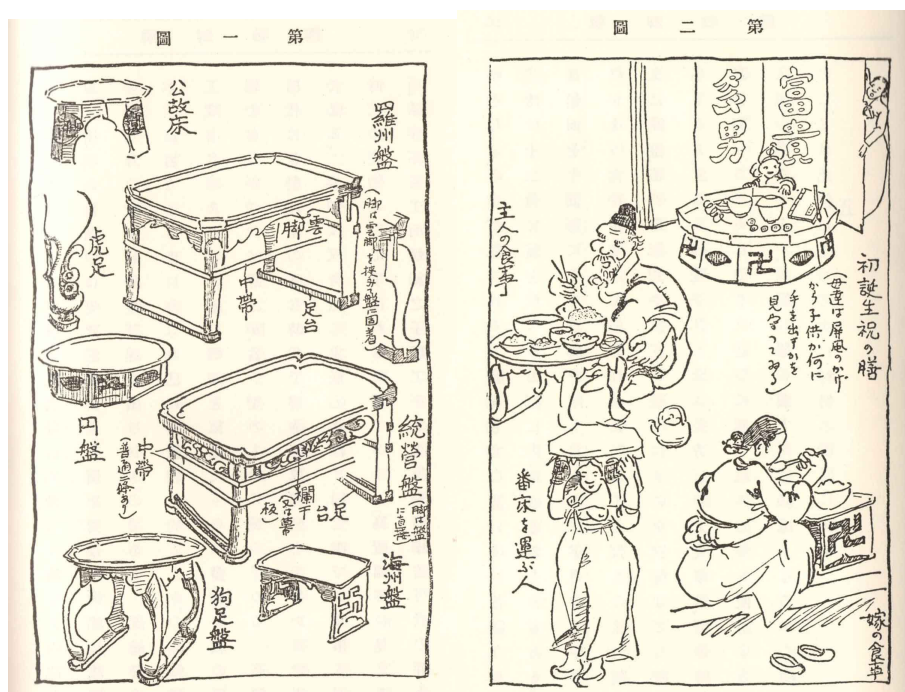
今回の話の内容は、浅川巧・伯教兄弟が柳宗悦と出会い、大きな影響を与え、柳の朝鮮美術工芸への案内役となり、後の(民芸)誕生につながる話が大半でした。

李朝家具の話は少なく、私には残念でした。

家具について印象に残っている言葉は、「李朝家具は品格がありバランスが良い」。

棚などの寸法、比率などに美しい感性のものがある。

後半(4時から5時まで)は、ビデオ「朝鮮人になりたかった日本人」を鑑賞。



浅川巧著「朝鮮の膳」より